

編集後記

弥生3月もなかばを過ぎ、桜の便りが届くかと思うと、季節が1か月も逆戻りしてしまうように気温の変動が激しい今日このごろです。編集子の居住する下総台地の端では、毎年、春の嵐が何回となく台地上を吹き荒れ、その都度関東ローム層の土埃が高く舞い上がり、あたりの視界を遮っています。

さて、今回は各位のご協力のおかげで7編の投稿が有りましたが、そのうち3編は第67号に掲載させてもらうこととして、下記の4編を本号に掲載した。

木島氏は、房総における東北系土師器について、県内の発掘調査により確認された資料の紹介を中心として集成と分析をされ、房総と東北地方との関係について論を進められた。

神野氏は白浜町沢辺遺跡の発掘調査で出土した「平底鍋形土器」を取り上げられた。この類似資料が夷隅地域の太平洋沿岸の遺跡において確認され、製塩土器の可能性が指摘されていることなどから再検討され、その問題点を明らかにし、今後の類例の増加を期待するとしている。

斎木氏は、長い間にわたって資料調査と研究を進められている板碑について、前号に続いて論を進められ、千葉県内出土板碑の諸相として、各遺跡の発掘調査で出土した板碑を集成され、研究史と遺跡の概要について触れられ、特に「板碑の出土状態」について注目されている。

吉野氏は、当センターで調査した袖ヶ浦市山野貝塚で出土した骨角器を取り上げられた。

次号以降の投稿希望があれば資料課まで連絡して頂きたい。また、割付の様式を作成したので利用していただければ幸いです。

研究連絡誌 第66号

平成16年3月25日 発行

発行者 財団法人 千葉県文化財センター
〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2
電話 (043) 422-8811
URL / www.chibaken-bunkazai-center.or.jp

印刷所 株式会社 正文社
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町1-10-6
電話 (043) 233-2235